



E-mail:honbu@otedama.jp

●お問い合わせなどメールをご利用ください



http://www.otedama.jp

●たまちゃん通信はホームページに掲載

日本のお手玉の会本部

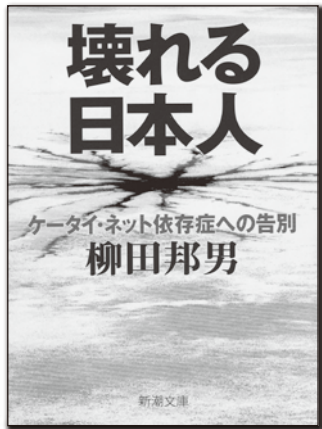
〒792-0013 愛媛県新居浜市泉池町 10番 1号



TEL : 0897-32-0302



FAX : 0897-32-0311



新潮文庫の本の表紙から

テレビゲームに熱中すると「ゲーム脳」に 柳田邦男さんが「壊れる日本人」で指摘

ノンフィクション作家の柳田邦夫さんが、著書『壊れる日本人』ケータイ・ネット依存症への告別』(新潮文庫)で、「見えざる手が人間を壊す時代」として「IT革命によって到来したケータイ・ネット時代」という情報環境を挙げて、いろいろ警告を發しています。

*2歳未満の子にはテレビを見せない

その一つに、次のような一説があります。「アメリカの小児科学会が1999年に出した一般への勧告がある。『子どもがテレビを見る時間は、1日に1〜2時間を超えないように両親を指導するのは、小児科医の役割である。とくに2歳未満の子どもにはテレビを見せるべきではない』というのだ。

アメリカの小児科学会は、十年以上前から子どもに対するテレビの影響について警鐘を鳴らし、子どもがテレビを見る時間を1〜2時間以内にすべきだと呼びかけてきたが、2歳未満の子どもにテレビを見せるなどまで言い切ったのは、1999年の勧告がはじめてだ。」

大切な親との

じかの言葉のやりとり

*大切な親とのじかの言葉のやり取り
見せるべきでないと言い切った理由を、
次のようにいっている。

「『研究によれば2歳までの子どもの脳の早期発達によって、また周囲の人の感情を的確に認知する能力の芽生え、すなわち社会性の発達にとつて、最も大切なのは、親や、そのかわりに世話をしてくれる人たちとのじかの言葉のやり取りであることがわかっているからだ』という。

つまり、子どもに対するテレビの影響は、暴力や性行動などの内容によるものと、親などとのじかの接触を奪ってしまふ電気的映像が脳に与える刺激によるものの2つの面から考えなければならぬというわけだ。

後者は、テレビゲームに毎日熱中している子どもは前頭葉の発達が進められ、正常な人格形成が阻害されるという、いわゆる『ゲーム脳』の問題だ。」

*あえて

「ノー電子メディアデー」提案

そして、次のように述べている。

「脳がダイナミックに成長する幼児期に、毎日テレビゲームにひたっていたら、反動的な運動神経やカッとなつたりする感情的反応の神経ばかりが発達して、人間として大事な、感情をコントロールする自制心や事態の全体をとらえようとじつくりと考える判断力や創造性につながる思考力は発達しないという『ゲーム脳』説について、私はそのとおりだと思ふ。」

さらに、「まずテレビを消そう。」

そして、「いまこそ、『ノーケイタイデー』『ノーゲームデー』『ノーテレビデー』『ノーインターネットデー』『ノー電子メディアデー』...の提案をしている。」

